

研修会報告

文責：血液部門 加賀淑子

日時：令和元年9月14（土）保健学科208（検査総合実習室）

テーマ：宮臨技学術部血液部門研修会

「末梢血液像の見方を学ぼうー基本のき（白血球5分類を中心に）ー」

内容：講義「末梢血液像観察の基礎知識」

講師 宮城県立精神医療センター 加賀 淑子 技師

実技実習「末梢血液像の観察(白血球5分類を中心に)」

実技指導 東北大学病院 大久保 礼由 技師

仙台医療センター 伊東 貴美 技師

東北医科薬科大学病院 大場 祐輔 技師

東北大学病院 菅原 新吾 技師

宮城県立精神医療センター 加賀 淑子 技師

日臨技生涯教育研修制度：専門20点

参加者：会員19名（実務委員5名含）、非会員2名 計21名

今回は末梢血液像で観察される白血球に重点を置き、基礎を学ぶ・確認する実習型研修会を企画した。

はじめに、血液検査のデータから鏡検確認が必要となる場合や末梢血液像観察のポイント、末梢血液像で観察される細胞の特徴などに関する講義を行った。末梢血液像鏡検の経験が浅い技師には基礎を学ぶ機会となり、経験が豊富な技師にとっては基礎を確認する内容であったと考える。

実習1は、末梢血液像で観察される白血球を鏡検しながらスケッチするという内容であった。同時に各グループの実技指導技師が受講者に細胞の特徴点を捉えるように声掛けし、細胞の特徴点リストから細胞の特徴点を選択してもらうことで、細胞を観察する際の着眼点を身に着けることができる内容でもあった。日常の細胞鑑別で迷った際にどのように考えて細胞を鑑別していけばよいのか学ぶことができた内容だったと考える。

実習2は末梢血液像のカウントを行った後に、検体凝固とEDTA偽性血小板減少症の違いなどの症例標本の観察を行った。日常検査で遭遇することが多い症例標本の観察であり、日常業務にすぐに活かせる内容であったと考える。

今後は、末梢血液像の作製や染色を行う実習や今回取り扱わなかった赤血球形態や血小板などに重点を置いた鏡検実習等を企画・開催し、血液検査技術のベースアップを図っていきたい。